

令和元年度

- 第 1 回 -

藤 岡 市 総 合 教 育 会 議 議 事 録

藤 岡 市

令和元年度第1回藤岡市総合教育会議議事録

日 時 令和元年8月27日(火)

午後2時

場 所 教育庁舎3階第1会議室

協議事項

日程第1 コミュニティ・スクールの取り組みについて

日程第2 いじめ問題の現状と対応について

日程第3 その他

出席者

市長	新井雅博君	教育長	田中政文君
教育長職務代理者	関口澄雄君	教育委員	中島知砂君
教育委員	田中正弘君	教育委員	田村洋子君

説明のため出席した者

教育部長	塚本良君	教育総務課長	飯塚公明君
学校教育課長	萩原裕一郎君	生涯学習課長	池田好年君
文化財保護課長	軽部達也君	スポーツ課長	吉田隆司君
学校給食センター所長	中山昭人君	図書館長	朝川浩二君

事務局職員出席者

教育総務係長	飯塚広之	主 任	堀越智也
--------	------	-----	------

会 議 の 概 要

開会 14時00分

教育部長（塚本良君） 皆さん、こんにちは。ただ今より令和元年度第1回藤岡市総合教育会議を開催いたします。本日司会を務めさせていただきます、教育部長の塚本です。よろしくお願いいたします。藤岡市総合教育会議は、平成27年4月、地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正され、その設置が定められました。この総合教育会議では、市長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、藤岡市の教育の課題や、あるべき姿を共有しながら連携して教育行政の推進を図ろうとするものであります。

開催にあたりまして主催者であります、新井藤岡市長よりご挨拶を申し上げます。

市長（新井雅博君） 皆さん、こんにちは。本日は総合教育会議に教育委員の皆さんにはご多忙の中、ご出席を賜りまして嬉しく思います。私自身も想像していた以上に、教育委員の皆様は様々な諸事業に出席し、多忙と感じている中、教育委員の使命を果たしていただいていることに対し、この席を借りて感謝御礼を申し上げます。

5年前に法律が改正され、行政庁と教育委員会の皆さんと意思疎通を図り、協議を重ね、教育施策を遂行していくこととされていますが、藤岡市では以前から意思疎通を図れていると実感しており、私が市長就任後も皆様との関わりを生かしていると考え、引き続きご指導いただければ幸いです。特に藤岡市は皆さんのおかげでコミュニティ・スクール、小中一貫教育は他市に、全国に誇れることだと思っていますし、これからの教育の原点と思っていますので、行政としても積極的に進めていくつもりです。また、私の考え方になりますが、教職員の多忙化が以前から話題となっています。私はもっと多くの時間を教職員が子どもと関わっていただくような制度にし、更に磨きをかけられればと思います。おそらく相当な事務などがあると思いますが、可能な限り子ども達と触れ合えることにより、子どものいじめやそれぞれの人間形成を図る中で昔と違い、個々の性格や資質をしっかりと把握できるような教職員になっていただければと思っています。

本日はいくつかの議事をご用意いたしましたので、慎重審議ご協議いただきますようお願い申し上げます。よろしくお願いいたします。

教育部長（塚本良君） ありがとうございます。続きまして、田中教育長より挨拶をお願いします。

教 育 長（田中政文君） 市長におかれましては、総合教育会議を開催していただき、誠にありがとうございます。先ほど、市長からお話がありましたとおり、教育部局と市長部局との大事な意見交換の場と考えていますので、よろしくお願ひします。

市長におかれましては、教育行政にご理解と多大なるご支援をいただいております。今年の座談会では、コミュニティ・スクールと小中一貫教育をパンフレットに掲載していただき、多くの市民に説明していただきました。私も何年間も教育委員会に携わってきましたが、このような方法で周知したことは初めての経験でした。私たちが進めることに対し、全面的にバックアップしていただき、感謝申し上げます。

続いて、リジャイナ市に市長が訪問しました。30年近く交流していますが、始まったころはこのように認められ、多くの方々に気に入られるようなことは考えられませんでした。市長、議長が市民全体の方に認められ、交流事業が行われたことは大変意義があったと思います。

また、ハード面でのエアコンの整備では、他に比べて若干遅かったかもしれませんが、特別教室にも整備することにより、県内でもトップに躍り出たと感じています。また未だニュース等でブロック塀のことについて取り上げていますが、藤岡市はスピード感をもって、昨年度中に撤去しました。

教職員の多忙化についてですが、今年の夏休みでは市長の英断により完全閉庁が初めて実施され、教職員が夏休みのお盆を中心に誰もいない状態となりました。話題が尽きませんが、市長にはご理解を賜りまして教育行政が進んでいます。また、忘れてはならない特別支援学校の件ですが、以前からご指導いただくと共に、総合的な開発に向けて色々と市長から県知事に発言していただきました。こうした中で我々も気を引き締めて活動していこうと思います。

本日の総合教育会議については、例の大津のいじめ事件がきっかけとなっておりますので、本日もいじめ問題の対応は報告させていただくとともに、小中一貫教育とコミュニティ・スクール、更には藤岡市の生涯学習等について幅広く意見交換が出来たらと思います。いずれにせよ子どもはもちろん、市民の笑顔、やる気、希望が増えるような話し合いができますようお願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。

教育部長（塚本良君） ありがとうございます。それでは協議事項に移らせていただきますが、進行につきましては、新井市長よりお願いいたします。

日程第1 コミュニティ・スクールの取り組みについて

市長（新井雅博君） それでは指名を受けましたので、議事を進行させていただきます。よろしくお願いいたします。早速ですが、日程第1 コミュニティ・スクールの取り組みについてに入らせていただきます。資料の説明を事務局からお願いいたします。

学校教育課長（萩原裕一郎君） はい。学校教育課の萩原と申します。よろしく申し上げます。さて、藤岡市がなぜ、コミュニティ・スクールと小中一貫教育と一緒に取り組んでいるのかというと、コミュニティ・スクールと小中一貫教育は極めて親和性が高い取り組みだからです。

コミュニティ・スクールは、学校と地域をつなぐ仕組みであり、小中一貫教育は、小中学校の児童生徒間、教職員間をつなぐ仕組みです。いずれも児童生徒に多様な者との関わりをもたせたいという願いが共通にあります。さらに、小中一貫教育は地域の支援を小中学校で断絶させない仕掛けとも言え、双方を両輪として、藤岡市の学校教育の一層の充実を図っていくことができると考えて、まずは学校がつながるために一貫教育を導入し、それを地域とつなげるためにコミュニティ・スクールをスタートしました。

コミュニティ・スクールとは、学校運営協議会をもつ学校のことです。そして、学校運営協議会の目的は学校運営の改善及び児童生徒の健全育成です。したがって、市内の全ての学校が小中一貫校ですから、地域との関係を学校ごとで切ることなく、5つの小中一貫校ごとに、5つの学校運営協議会を設置しました。資料1の図1の真ん中にコミュニティ・スクールがあります。その左下の四角で囲われたところに、複数校について1つの運営協議会の設置が可能という文科省の方針を受けて、図2のように本市ではひとつの連携型小中一貫校ごとに、ひとつの学校運営協議会としました。

ただし、学校運営の責任者はあくまでも校長であり、学校運営協議会は校長のブレイン、「辛口の応援団」、つまり時には文句も言うけど、最終的には応援してくれる組織であり、学校を批判する組織ではありません。したがって、委員は、校長と共に行動していける方をお願いするようにしています。

学校運営協議会の活動は、連携型小中一貫校がどのような方針で学校を運営

していくのかを承認、その方針に沿った計画づくりや実施についての協力、学校の課題の把握と解決、地域住民が学校の活動へ参画することの促進、学校に対する評価、保護者や地域住民への活動状況の公開、情報提供です。

そのため、藤岡市の学校運営協議会には、評価部・広報部・連携推進部を置き、組織的に対応しています。

それぞれの部の具体的な活動を見ていきます。評価部ですが、資料4をご覧ください。そこにあるようなアンケートを作成し、広く地域で評価をしてもらい、運営協議会の在り方、学校の在り方についての検討材料とし、今後のよりよい運営に生かしています。

続いて、広報部ですが、資料5をご覧ください。コミュニティ・スクール通信として第1回の学校運営協議会がこういったメンバーでスタートし、早速、このような内容が熟議されたということ、対象地域の全戸へ回覧をしています。

連携推進部ですが、資料7をご覧ください。今までも様々なボランティアの協力をいただき、その成果も見られていますが、一貫校の校区として、このような用紙を地域に広く配付し、新たなボランティアも含めて人材確保につとめ、ゆるやかなネットワークにつながる、土台づくりを進めています。

続いて、地域学校協働本部について説明いたします。資料2の図4をご覧ください。

地域学校協働本部とは、従来の地域と学校の連携体制を基盤として、より多くのより幅広い層の地域住民、団体等が参画し、緩やかなネットワークを形成することにより、地域学校協働活動を推進する体制です。そして、これは学校運営協議会の意向をくんだ動きとなっています。

続いて、資料2の図3をご覧ください。その図の下半分が地域学校協働本部になりますが、そこに、「学年・学級経営・教科指導・読書部」「安全教育部」「キャリア教育部」「郷土学習・地域との交流部」の4つの分野にくくって、内容や役割を明確にしています。

資料3をご覧ください。「学年・学級経営・教科指導・読書部」という矢印の先に、学習支援や図書館の花が咲いています。安全教育には交通安全とパトロール、キャリア教育にはチャレンジウィーク、郷土学習・地域との交流には伝統芸能と地域行事がつながっています。例示は少ないですが、授業を中心に学校単独でできることと、地域の力を借りてより充実した学習や取り組みにな

るであろう地域学校協働活動に分けられています。

また、その地域学校協働活動を充実していくためには、コーディネーターの役割も重要です。そのコーディネーターの中心となるひとが、学校運営協議会に委員として加わり、2つの組織を繋いでいくことになります。

以上のように、学校運営協議会と地域学校協働本部が、より密接な関係を構築し、地域と学校双方向の「連携・協働」を推進し、これまでの「個別」の活動から「総合化・ネットワーク化」へと発展させていくことが必要です。さらに、ボランティアの取り組みの様子を学校ホームページや各種便り等で発信することにより、ボランティアの輪を広げ、住民参画の促進を図っていくことも大切です。藤岡市では、学校運営協議会がグローバルな視点で、「学年・学級経営・教科指導・読書部」「安全教育部」「キャリア教育部」「郷土学習・地域との交流部」の4つの分野におけるローカルな活動の道筋を示していきたいと考えています。

これまで、市教委学校教育課が主導で、教育懇談会という形で、保護者、地域、学校の皆さんの参加を募り、いじめ問題に関しての協議を行ってきました。しかし、昨年度、いくつかの学校運営協議会に参加するなかで、運営協議会が中心の懇談会が開催できるのではないかと思うようになってきました。

資料6、コミュニティ・スクール通信No. 2をご覧ください。そこに記載があるように、今年度の教育懇談会は、司会、挨拶、班別協議進行、班別まとめ発表、全体のまとめまで、全て協議会主体で行ったり、協議会と市教委が役割を分担して行ったりして、開催することができました。そのことが、地域のみなさんや保護者、教員等の主体的な参加につながり、主体的な発言・協議につながっていきました。記事の中にあるように、この校区では100名を超える参加者がありました。今年度の前半に見られた出来事でした。

最後に資料8をご覧ください。上毛新聞に取り上げられた藤岡市のコミュニティ・スクールについての記事です。丁寧に書いていただいているので、ぜひ、ご一読ください。

コミュニティ・スクールの取り組みについては以上でございます。

市長（新井雅博君） ありがとうございます。ただいま事務局からコミュニティ・スクールの取り組みについて説明をさせていただきました。ぜひ、委員の皆様から忌憚のないご意見又はご指導がありましたら、お願い致します。

委員（関口澄雄君） はい。

市長（新井雅博君） 関口委員。

委員（関口澄雄君） コミュニティ・スクールの取り組みについては、学校訪問等で各校長先生から説明を受けますと、かなり順調に進んでいると聞いております。来月には中学校へ学校訪問し説明を受けますが、私自身も見て感じたこととしてコミュニティ・スクールは文部科学省が平成17年度から取り組みがされてきましたが、群馬県は非常に取り組みが遅く、他の都道府県では様々な取り組みが行われました。平成29年度の群馬県内では、高崎で3校、伊勢崎で7校の計10校だけがコミュニティ・スクールになっていました。平成30年度より藤岡市で初めて導入しましたが、経緯の中でお聞きしたいことがあります。まず、コミュニティ・スクールにおいて各学校の地域の方々が学校に来る回数は増えたか減ったか。それに伴うボランティアの方々は、どのようになっているか。それから、学校の教育活動の充実が図られているのか、これによる先生方への負担は軽減されているのか、回答をお願いします。

市長（新井雅博君） 学校教育課長。

学校教育課長（萩原裕一郎君） はい。まず、来校者の状況ですが、学校に来て作業していただいていますので、来校者の人数は増となっています。次にボランティアの件ですが、学校運営協議会等がボランティアを呼びかけることが多いことから、ボランティアの数も少しずつ増えています。教育の充実ですが、当然教職員だけでは出来ないこと、例えばスポーツテストは長時間実施することになりますが、地域の方々に来ていただき、様々な競技をスムーズにでき、活動は充実していると考えています。それから負担については、色々な面で助けていただいております、子どもと触れ合う時間が増えているのは事実です。

以上です。

教育長（田中政文君） はい。

市長（新井雅博君） 教育長。

教育長（田中政文君） はい。補足で説明します。先ほどの関口委員の質問についてですが、一番大切なことは、今までは支援という形で学校からはお願いしませうという形でボランティアの皆様にご協力をお願いしていましたが、ボランティアの皆様もやりがいを感じ、協働していくことが大事と考えています。この新聞記事ですが上手にまとまっています。内容のところで中栗須在住の須川さんは「学校や子どもと関わって楽しい。活力をもらっている」とやりがいを語っており、このような方が増えていくことによりコミュニティ・スクールが成功す

るものと考えます。ただし校長とすると、ボランティアの方々にやりがいを感じてくださいますとは言いづらい部分があります。そのため、学校運営協議会が中心となって、そういった方向性を示していくことが大事だなと感じています。毎年市が主催する地区座談会で小野地区において、熱心にパトロールを行う方がいまして、その方がどうやったらパトロールに参加できますかと私のところに問い合わせがありました。その雰囲気は大事だと考えています。

市長（新井雅博君） 関口委員。

委員（関口澄雄君） わかりました。ありがとうございます。

市長（新井雅博君） 他にご質問はありますか。

委員（田中正弘君） はい。

市長（新井雅博君） 田中委員。

委員（田中正弘君） はい。コミュニティ・スクールが今年の4月から始まり、状況等を説明いただきました。まず、保護者や子ども達がコミュニティ・スクールをどのくらい理解しているのか。この点についてお聞きしたいと思います。

市長（新井雅博君） 学校教育課長

学校教育課長（萩原裕一郎君） 先ほどご紹介いたしましたコミュニティ・スクール通信はボランティア側から作成と学校運営協議会が作成するのと2種類があり、発行しています。その中で協議や活動内容などを掲載することにより保護者に説明しています。教職員も学校運営協議会に参加して、その仕組みや動きを見るなどの取り組みをしています。子どもには保護者や地域の方々が学校に来ているのを見て経験しているので、理解はしていると判断しています。

市長（新井雅博君） 田中委員。

委員（田中正弘君） 確かに今までと環境が変わったことは保護者や子どももわかってきていると思います。しかしそれが一体どのような意味なのかという深い内容までは中々浸透していかないのが懸念されます。ですので、コミュニティ・スクールと学校運営協議会がやろうとしている一番大切なことを皆さんに知っていただくような機会をぜひ学校運営協議会等が中心となり開催をお願いできればと思います。実際問題、学校支援ボランティア登録用紙ですが、中身を知らず一人歩きした場合、私たちが目指そうとするところからちょっとそぐわない所になってしまうことが懸念されます。ぜひ、この登録用紙とは別にコミュニティ・スクールや学校運営協議会とはなど、わかりやすい表現に集約した用紙を一枚添付した方が一般の方々も理解しやすいと思いますし、教育長

からも説明がありました。私もやってみたいという意識が一番重要だと考えています。あくまで参考です。

教育長（田中政文君） はい。

市長（新井雅博君） 教育長。

教育長（田中政文君） 田中委員には藤岡第一小学校で関わっていたため、詳細な内容がよくわかっていると思います。大事なことなので、先ほどの指摘の件はきちんと対応していきます。また、明日28日（水）に北中校区地域学校協働本部総会が開催され、私に出席依頼がありました。西中校区でも開催され、100人程の出席がありました。小野中校区も開催され、保護者ですがコーディネーターでもある方が小中一貫教育とコミュニティ・スクールについて説明していただきました。私も出席している中で、小中一貫教育の仕組みなどを保護者の方が手分けして説明していました。若干時間はかかると思いますが、このようなアナウンスを続けたり、指摘のありました分かりやすいチラシなどを作成したりすることなどを通じて少しずつ進めていけたらと思います。

市長（新井雅博君） 田中委員。

委員（田中正弘君） わかりました。ありがとうございます。

市長（新井雅博君） 他にご質問はありますか。

委員（田村洋子君） はい。

市長（新井雅博君） 田村委員。

委員（田村洋子君） はい。コミュニティ・スクールを進めていく上で、一番核になるのがボランティアだと思います。色々な事業を進めていく中で、ボランティアをしたい人と学校ボランティアになっていただきたい人に若干ズレがあり、そのような部分でコーディネートしていくと、重要な方だと思いますが、非常勤の公務員という身分はありますが、財政的な支援をしていただき、その方の身分をもう少し高い位置にさせていただければと思います。学校運営協議会の中でもボランティアが参画するにあたり、どのような目的やテーマがあって、子ども達にこのような形で支援したい気持ちを一方通行だけでなく、その活動を通じて、自分自身にも得るものがあることをご理解いただいた上で、協力していただく体制にしなければ、長続きしないと思います。最初はお願いされ実施しましたが、次から多忙により行かないとなれば困ると思います。ボランティアの方たちが次の世代に交代する時に、人が代わったら終わりではなく、地域で子育てをしていくことを理解してもらうこと、地域と学校のコーディネー

ターが非常に重要なのかなと思います。もう少し手厚い補償をお願いできたらと思います。ボランティアが自分の自由意思で活動をすると思います。時間を作らなければならないため、活動する方についても負担はあると思います。ですからそのようなことも理解した上で、協力していただくような体制をとっていただければなと考えています。

教 育 長（田中政文君） はい。

市 長（新井雅博君） 教育長。

教 育 長（田中政文君） 予算が絡む関係ですので断言できませんが、先ほど説明したとおり、コミュニティ・スクールについては、身分をしっかりと責任をもっていただくこともありますので、学校運営協議会の皆様には予算措置を市長のほうにお願いした経緯があります。国が説明する地域学校協働本部におけるコーディネーターいわゆる地域学校協同活動推進委員と言われていますが、これについても身分をしっかりと、取り組む方が望ましいとされていますので、協議していきたいと思います。

市 長（新井雅博君） 田村委員。

委 員（田村洋子君） 肩書きがあるのとないのでは違ってくると思います。内容が全然分かんない人にとって受け方や反応が違ったりします。

市 長（新井雅博君） 教育長。

教 育 長（田中政文君） こちらとしても責任をもって活動してくださいと依頼していく中で、ある程度そのような形が必要だと思いますので、市長部局と協議していきたいと思います。

市 長（新井雅博君） 地域の結びつきを強めながら、これからは子どもからお年寄りまで顔を見て、心通じ合うことがこれからの町づくりの基本と考えていますので、その活動の中で小中一貫教育とコミュニティ・スクールはものすごく重要な施策だと思います。予算の関係もありますが、この内容は教育部局だけでなく、これからの地域の町づくりに一番大切な施策なので、ぜひこれからもご相談させていただければと思います。

市 長（新井雅博君） 他にご質問はありますか。

委 員（中島知砂君） はい。

市 長（新井雅博君） 中島委員。

委 員（中島知砂君） 私の体験談ですが、私には3人子どもがいて、藤岡第二小学校でお世話になりました。平成13年頃に学校ボランティアがありまして、

親の得意なことを空いている時間に学校のために協力することがあり、私も関わったことがあります。その後、学校支援隊と名称変更があり、色々と決まりごとが出来上がりました。その途中のメンバーとしては、どこまで関わっているのか、授業を進めるのは先生ですので迷いながら活動に参加した記憶があります。ですが、今こうしてコミュニティ・スクールと学校支援ボランティアなどの組織がしっかりできたので、もしそうしたことがあっても校長先生を中心に解決してどんどん良い方向に流れていくのではないかと思います。ですからこういった流れは非常に良いと感じられます。

市長（新井雅博君） ありがとうございます。議題1について、他にご質問はありますか。

委員（田中正弘君） はい。

市長（新井雅博君） 田中委員。

委員（田中正弘君） 今、中島委員の話聞いて感じたことですが、学校教育ですので、どこまで手を出していいのか分からないということですが、学校の授業ではなく部活動に置き換えた場合、その部活動を経験していない先生が顧問に就いている際、そこに経験者の方がボランティアスタッフに入ってきた時が一番不安、心配だなと感じます。学校教育の一環である部活動ですからあくまで部活の顧問や子ども、保護者を優先し、ボランティアスタッフはあくまでもボランティアして指導していただく、この形を整えていかないと問題が発生する可能性が考えられます。すみわけはきちんとしながらボランティアスタッフの募集をお願いできればと思います。

学校教育課長（萩原裕一郎君） はい。

市長（新井雅博君） 学校教育課長。

学校教育課長（萩原裕一郎君） 実際に校区によってはバスケットボールやサッカー等では、外部のコーチを招致し、顧問がついているところがあります。試合を観戦したところ主で指示しているのは外部のコーチですが、顧問がしっかり付き添っている状態でいますので、他の校区でも同様な形を取りたいと思います。ただ、そのようなところでも気を付けるところについては、こちらからも気を付けていかなければならないと思っています。

委員（田中正弘君） はい。

市長（新井雅博君） 田中委員。

委員（田中正弘君） 小学校・中学校では、保護者が深く部活動に関わっており、

子どもよりも保護者の方が外部コーチに気を使ってしまうことがあると思います。例えば、お茶を入れたりやお弁当を用意したりなど、必要以上に気を使ってしまう体制が今まであったと思いますので、今回のコミュニティ・スクールの一環としての活動であれば、ある意味修復するチャンスだと考えられます。その点更に強調していただければと思います。

市長（新井雅博君） ありがとうございます。今まで発言した内容を踏まえて協議し、改善していきたいと思います。

委員（田村洋子君） はい。

市長（新井雅博君） 田村委員。

委員（田村洋子君） 補足でお話しします。大阪市の小学校で子ども食堂の延長として学校の家庭科室を地域の人に開放して、食育の一環も兼ねて朝食をちゃんと取るために、お金の有無に関わらず朝食が食べたい子は朝家庭科室に行けば、毎日ではありませんが食事ができる取り組みがあったと思います。藤岡市の場合、学校給食センターがあるため調理室はありませんが、家庭科室を週に一回でも使用して朝食を食べ、食育の観点から食材は皆さんが持ち寄ったものを簡単に調理したものになります。その他食材費として100円から200円としてきちんとお金を出して、ご飯を食べるという習慣が大事だということを認識させる。そしてそれは全てボランティアの方々が無報酬で子ども食堂を活動していると思いますので、食育の意味を踏まえて、食も一つのテーマになるのかなと考えています。

市長（新井雅博君） 子ども達の成長にとっては、欠かせないことだと思います。

委員（田村洋子君） 子ども食堂はどうしても親の都合で食事の用意が出来なかったりですとか、食べられない状況の子どもが行くという想像が出来るとは思います。自宅にご飯は用意されていますが、時間ぎりぎりまで寝て、食事を食べてこないという子どもがいたりしますので、誰でもそこに行けばご飯が食べられる環境にしていれば、本当に作ってもらえない家の子どもも恥ずかしくもなんともなくそこに参加することができることは、ちょっと面白い取り組みだと考えます。

市長（新井雅博君） 担当のほうで大阪の取り組みについて調査をし、協議しておいてください。皆様、ご意見ありがとうございました。

日程第2 いじめ問題の現状と対応について

市長（新井雅博君） 続きます。日程第2 いじめ問題の現状と対応についてに移ります。説明を事務局よりお願いします。

学校教育課長（萩原裕一郎君） はい。いじめ問題の現状と対応についての資料をご覧ください。平成30年度藤岡市いじめ認知件数は、小学校74件、中学校28件、合計102件となっております。平成29年度が合計27件となっておりますので、大幅に増加しております。

資料1をご覧ください。これは文部科学省から出された資料です。本資料の7行目後半、初期段階のいじめであっても、あるいは1回限りのいじめであっても、学校が組織として把握し、見守り、必要に応じて指導し、解決につなげることが重要であるとあります。また、その下の、いじめの定義を再確認しましょうのところはいじめ防止対策推進法において、児童生徒に対して一定の人間関係にある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為を、対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じていけばいじめだと定義しています。

次のページをご覧ください。中段より少し下のところ、いじめの認知に関する文部科学省の考え方に、文部科学省はいじめの認知件数が多い学校について、教職員の目が行き届いている証しであると考えています。正確に認知し、しっかりと対応していくことが大切だと考えています。反対に認知が少ない学校が心配だとも言っています。

このことから、藤岡市の教職員も意識を変えて子ども達の様子を見てきたために、これだけ認知が増加したということです。

このようないじめの対策といたしまして、以下の3点、「いじめ問題解決に向けた子ども会議」、「いじめ問題解決に向けた中学校区別教育懇談会」、「藤岡市いじめ問題調査委員会」等に取り組んでおりますが、本日はコミュニティ・スクールの中でも説明いたしました、「いじめ問題解決に向けた中学校区別教育懇談会」についてお話をさせていただきます。

これは、保護者や地域の方々、教職員がいじめ問題撲滅に向けた協議を行うものであります。今年度は、「感じ方が敏感な子ども達（HSCと呼ばれる子ども達）」はなぜいじめられやすいのかを切り口に感じ方の違う人達に対して、どのような対応を周囲の人間が取るべきかについて話し合いました。参加者からは、「同じ言葉を発しても、受け取る側の感じ方は違うのは当然。相手によってことばの使い方、伝え方を変える必要があり、まずは相手を知ること、お互いの個性を認め合うことが大切である。」などの意見が出されました。区長、

民生児童委員、保護者、教員など5中学校区で総勢358人と多くの方々に参加していただき、熱心な協議が行われました。

このような機会を出発点として、多くの大人が子どもと関わり、子どもの様子をよく見て、よさを認めて、ほめていくことが子どもたちも他人の個性を認めたり、ほめたりすることにつながっていくのでしょうか。これからも、コミュニティ・スクールの力に後押しをしてもらい、いじめの起こらない人間関係が育まれていくことを信じて、学校・家庭・地域と一緒に頑張っていきたいと思っています。

以上です。

市長（新井雅博君） ありがとうございます。ただいま事務局からいじめ問題について説明をさせていただきましたので、また忌憚のない意見をいただきたいと思えます。よろしくお願ひします。

委員（関口澄雄君） はい。

市長（新井雅博君） 関口委員。

委員（関口澄雄君） 学校教育課長からも説明いただきましたが、平成25年から平成30年までのいじめの件数があり、平成30年度は以前より4倍以上出ていますが、これは教職員の目が行き届いているとありました。ただ、本来いじめ件数を把握できるのはアンケート方式で子ども達に月に一回など行うことが出来れば、もっと実態が掴めるのではないのでしょうか。

市長（新井雅博君） 学校教育課長。

学校教育課長（萩原裕一郎君） 実際、学校では定期的にアンケート調査は実施しており、そこで把握したものについては、全て細かく調査を実施しています。

委員（関口澄雄君） はい。

市長（新井雅博君） 関口委員。

委員（関口澄雄君） アンケートでは認知件数よりも低いと思われまひ。いずれにしても、いじめは社会問題になります。世間で発生しているいじめ問題では、先生がいじめの状況を知っていても、知らないような対応をすることがあります。ぜひ藤岡市ではいじめが無くなるような方策をとり、資料にある年一回の子ども達による会議、中学校区での懇談会が開催されていますが、それ以上に子ども達からのアンケート調査が一番大事だと思ひます。子ども達に口には出せないことをアンケートにて提出させることにより、情報を把握し、上司に報告し対応する先手をとらなければ、いじめは減らないと思ひます。いじめと喧

嘩は紙一重と考えています。しかし、いじめは教育現場ではあってはならないことなので、これから先の対応をお願いできればと思います。

市長（新井雅博君） ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

委員（中島知砂君） はい。

市長（新井雅博君） 中島委員。

委員（中島知砂君） 自分の子どもがお世話になっているときは、子ども達が先生に反発したりするなど、先生をいじめることがありましたが、近年そういったことは無いのでしょうか。

教育長（田中政文君） はい。

市長（新井雅博君） 教育長。

教育長（田中政文君） 今はそのようなことは無くなりました。どちらかと言うと引きこもりや不登校のほうが多く見られます。一時期の元気の良いやんちゃな子どもはほとんどいません。今の子どもは真面目で大人しい子どもが多いです。

委員（中島知砂君） わかりました。

委員（田村洋子君） はい。

市長（新井雅博君） 田村委員。

委員（田村洋子君） 自分の子どもが小学校1年生の時にひどいいじめを受けたことがあります。学校に連絡しましたが、学校の対応でいじめを受ける方にも問題がありますよと言われたことがあります。その意識が学校の方々にもあって、いじめられる方にも何かあるのではないかとと言われてしまいますと声を上げられないと思います。なので、いじめを受ける方は絶対に悪くないってことを前面に言わないと、あなたの態度や行動が悪いような否定的なことを言われるとアンケートをしても声に出せないと考えられます。いじめを受けている方は絶対に悪くないということを良く説明していただければありがたいと考えています。

市長（新井雅博君） 教育部局のほうでは、仲裁したりと様々な対応をしていると思いますが、どのような状況なのでしょう。

教育長（田中政文君） はい。

市長（新井雅博君） 教育長。

教育長（田中政文君） 今の話は非常に重要だと思います。そのような機会では必ず一人ひとり確認し、いじめはどんな理由があろうとも絶対に許されないことを言っており、いじめられている子に責任はないということを言い続けています。

それは学校の中にも定着していると思います。いじめの行為がどんなことがあっても許されないということを確認させるとともに、教育懇談会は幅広い世代が集まるので、最初の確認事項で説明しています。そうしなければ、話し合いがまとまらなくなってしまうので、今、田村委員の話は重要です。

委員（田村洋子君） はい。

市長（新井雅博君） 田村委員。

委員（田村洋子君） 実際にいじめを受ける立場の親としては、いたたまれない気持ちになり、自分の子どもが誰もいない場所に連れて行かれて、ランドセルの上から蹴られたり、靴を取られたり、上履きを隠されたりするなどをされていまして、まず親より先に先生に連絡したところ、お母さん、それはお子さんのこのような態度が悪いんですよ。と言った内容を説明され、体が震えてしまいそれ以上何も言えなくなってしまいました。なので、自分の子どもは自分で守るしかないのかという気持ちになり、子どもが学校に行きたくないと言ったので、私もその気持ちを考え、学校なんか行かなくていいとして学校を休ませた経緯があります。声をあげてもまだ隠れている部分があると思いますので、そのような部分もチェックしながら声を出すように指導していただければと考えています。

市長（新井雅博君） まだまだ声を出せない部分があると思いますので、そういった部分を見過ごすことがないよう先生の対応マニュアルを徹底していただければと思います。

委員（田中正弘君） はい。

市長（新井雅博君） 田中委員。

委員（田中正弘君） 学校としては、携帯電話を持ってきてはならないとされていますが、持ってこないとしても自分の携帯を持っている子どもが増えています。その中でメールやSNS等まではなかなか入り込めないと思います。せめて、携帯電話の所持状況までは教育委員会として把握した方がいいと思います。同時にインターネットを通じてのいじめの存在が有るということと時々で構わないと思いますが、大人が子どもの内容をチェックするということを周知していただければと思います。以上です。

市長（新井雅博君） いかがでしょうか。

学校教育課長（萩原裕一郎君） はい。

市長（新井雅博君） 学校教育課長。

学校教育課長（萩原裕一郎君） SNSを通じて、子どもの悪口を書き込むですとか、そのようなことは無いようにするために、心の面でアクションプラスということを考えるようにし、大事なことは目を見て直接伝えましょう。というキャッチフレーズを学校に貼り出しをするなどしています。また、先生方がSNSでの状況を実際に把握して、委員から指摘のあったとおり子ども達や保護者にもしっかり注意していくことが必要ですので、注意喚起をしっかり促していきたいと思います。

市長（新井雅博君） 携帯の所持状況の調査は？

学校教育課長（萩原裕一郎君） 調査は実施しています。毎年11月から12月頃にどのくらいの子どもが携帯電話を所持し、1日の使用量や学習時間との状況を毎年学校ごとに集計し、1月の校長会議で各学校に戻し、学校毎の実態を把握し年度末に向けて子ども達に指導しています。

教育長（田中政文君） はい。

市長（新井雅博君） 教育長。

教育長（田中政文君） 補足で失礼します。毎月メール便でノーメディア読書デーのチラシを保護者に送付すると、時に思い出して、本日は本を読みましたと反応がある子がいます。その一環で携帯電話の所持状況の調査を行っています。ご指摘のとおり、所持率はここ数年で増加していますので、使用方法や情報モラル教育についても教材を確保し様子を見ています。来年からの道徳の教科書を見させていただきましたが、いじめやSNS問題を扱っている教科書が選ばれていますので、うまく活用していきたいと思います。SNS等の問題については気を引き締めて対応したいと考えています。

市長（新井雅博君） ありがとうございます。他にご質問はありますか。無ければ日程2いじめ問題の現状と対応についてを終わります。皆様、ご意見ありがとうございました。

日程第3 その他について

市長（新井雅博君） 日程第3その他についてですが、何かございますか。先ほどの議題内容にかかわらず、ご意見等がありましたら、ご発言願います。

委員（関口澄雄君） はい。

市長（新井雅博君） 関口委員。

委員（関口澄雄君） 藤岡市では平成3年よりカナダリジャイナ市へのホームステ

イが始まって交流していますが、今年度市長が同行したと新聞等で掲載してありましたので、お聞きしたいことがあります。まずリジャイナ市とフレンドシップ協定を締結したと聞きましたが、中身が不明であることから今後どのような活動または交流に発展していくつもりなのでしょうか。もう一点ですが、リジャイナ市へ訪問した際に、市長が見て子どもが学ぶ学校の校舎や学習設備等で教訓になったことはあるのでしょうか。参考までにお聞きしたいと思ひまして、質問します。よろしくお願ひします。

市長（新井雅博君） はい。まず、フレンドシップ協定ですが、この締結を機会に今まで28年間民間レベルで、藤岡市の場合ですと行政と関わってきましたがリジャイナ市では100%民間で行っておりました。これを機会に行政が極端に表に出るのではなく、今まで積み重ねたものを含めてサポート役になろうとしました。これから様々な事業を藤岡市でもしっかりサポートしたいと思ひます。

私自身、バンクーバーに2週間ほど牧場の家に滞在したことがあります。それを経験したことにより、その後の人生、社会の見方が大きく変わったと思ひますので、ホームステイは子ども達にとって、大きな経験と自信をもつことができたと考えています。

リジャイナ市の施設については、ホームステイ先の子ども達の学校施設は休校中により入れませんでした。ただ、その別の学校は特別にリジャイナ市からお金を出して建設された建物で、冬ではマイナス20℃、30℃になりますので、床暖房になっていました。また、保育園から受け入れる教育施設でした。ありとあらゆる施設や内容が別格だったと考えています。現地の人からもこの施設は別格と説明を受けました。また、移民政策についても考えており、移民政策を押し進めるかによって受け入れには費用が掛かるが、必ずその人たちが働いて税を納める。その循環の社会を作ることを、国民性で行われています。そのような文化を藤岡市の子ども達が肌で感じることで重要な体験だと思ひます。

委員（関口澄雄君） ありがとうございます。

市長（新井雅博君） 他にございますか。

出席者全員 なし

市長（新井雅博君） 他に意見等ないようですので、用意した協議事項については終了させていただきます。本日は、いろいろなご意見をいただき、ありがと

うございました。ご意見等については、市長部局、教育委員会事務局においてこれから更に検討し、藤岡市の教育行政に活かしていきたいと思えます。

以上をもちまして、第1回総合教育会議の全ての日程を終了しました。お疲れさまでした。

教育部長（塚本良君） ありがとうございます。それではこれもちまして、令和元年度第1回藤岡市総合教育会議を終了いたします。次回、総合教育会議は、招集すべき議題が発生した場合に随時開催したいと思えますので、よろしくお願いたします。ありがとうございました。

（15時00分）